

わが母校に寄せて



リポーター 石井 百合子さん (十二所・中町)

今年、市内の大多数の中学校が創立五十周年を迎えました。その新聞記事を見て、そういえば、卒業してから中学校へ行ったことがないなどと思い、リポーターをしているこの機会に母校のことを書こうと思いましたが。

最近、中学校は非行やいじめなどにより、いろいろと注目されています。そのことについて書くのと取材したわけではありませんが、取材してみても、中学生の事件は単

に中学校だけの問題ではなく、それを取り巻く社会全体の問題ではと感じました。それは、成章中学校には地域のかたを含め、家庭的な雰囲気があり、騒がれるような問題がないようだったからです。他校(他地域)のことは取材していませんし、また、小規模校と大規模校を一概に同一視できるものではないかもしれませんが、参考になる部分があるのではないかと感じました。なお、お話は大館市立成章中学校の校長、松本隆文先生にお伺いしました。

現在の成章中学校の様子

成章中学校の今年の生徒数は、百七十人。男子、女子生徒ともちょうど八十五人ずつです。今年度は各学年とも二クラスずつですが、来年度は五クラス、そして次の年には四クラスと減少傾向にあるそうです。私の中学時代と比べてみると生徒数は約半分です。

建物は、普通教室のある三階建ての校舎が十九年目、音楽室棟が三十三年目、技術室棟が三十六年目、そして土台が木造の体育館は、四十二年目を迎えるそうです。体育館は私が在学当時のままで、卒業式のときは寒かったという印象

があります。

校舎の正面に大きく掲げられているスローガン「半世紀の軌跡―五十年の足跡と共に今、歩み出そう」、これは生徒会執行部で考えられ、運動会や成中祭など行事に合わせて書き替えられるそうです。実際にレタリングしているのも生徒だと聞いて驚きました。遠くからでも目立つかなり大きいもので、私はてっきり専門家に依頼しているのだと思っていたからです。

成章中学校は生徒数からいえば小規模な学校です。そのため、連絡がすぐに行き渡り、思い立ったら急なことでなくてもすぐに実行に移せるし、地域との連携がとれるという、校長先生のお言葉を借りれば「こまわりがきく」という良い面があります。さらにもっと良いことには、先生が全生徒の顔と名前を一致して覚えることができるという事です。生徒一人ひとりをはっきりと認識できるので、お互いが分かり合えるようです。

地域のみんなでバックアップ

ここ数年、成章中学校はスポーツでの活躍もめざましく、特に今年には野球部が目立ちました。「野球」といえば二市二郡中学校選抜

野球大会、通称「成章選抜野球」があります。

この大会は私が在学中からすでにあり、今年で四十年目となるほど長く続いています。十二所の開業医、佐藤氏が「夏の大会で負けてしまったら子供たちには試合の機会がない。また、補欠だった子にもチャンスを与えたい」ということで始められました。以来、成章野球協会という野球部のOBのかたたちが中心となり、大会が運営されています。一口に大会の運営といっても、グラウンド整備や寄付集めなど煩雑なこともありませんが、子供たちのためにと、手弁当でなされているそうです。もちろん、生徒たちもただ大会に参加するだけではなく、開会式や閉会式の準備など、いろいろと協力しています。やはり、自分たちのためにやってくれているということが通じているのでしょうか。

また、野球部員たちが、先生がいなくても手抜きすることなく、まじめに練習していることに、校長先生は感心なさったそうです。これはグラウンドが道路沿いにあるので、常に地域のかたたちに見られていることから、それが励みになっているというのがあるのでしよう。